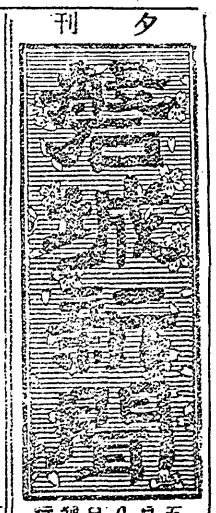
夕刊



五月八日發行

定價一ヶ月金六拾五錢　郵税拾五錢
廣告料金（一段）金九拾錢（二段）金一圓八拾錢（三段）金二圓七拾錢（社告）一行一回金拾錢（但所定行數超過）
編輯兼印刷人兼發行人　柏木哲
田町字本町四番地
發行所　磐城新聞社
電話平四六〇番
東京出張所　東京市麻布区霞町一番地（クライワ）
電話麻布（三四）五六四番

（日曜祭日翌日休刊）
東京出張所　〇八五六六五番

名所とはなにか（一）

平新名所原畫展を觀る——

島田春雄

常磐海岸鑑賞會では平市劃施行を機會に平市の新名所を集めた美術繪葉書を刊行する計畫で四月中旬その原畫展示會を開いた、當時僕はこれを拜見する機會を逸したのを甚だ遺憾に思つてゐたのだが、幸ひ六日夜イハキサロンに再び陳列されてゐることを聞いて諸家苦心の筆に成る原畫に接することを得た

僕は美術に關しては全くの門外漢だが嘗つてこの町で文學、映畫の領域に於て些か文化運動の一翼に參加した經驗を有ち、且つまた現住『石城郡誌』の編纂に從事し今後も石郡の文化運動には微力を盡したい熱意を持つてゐるものである

この立場から今度の在平美術家團体の鄕土紹介計畫を一つの文化運動として若干の檢討を試みたい

先づ、常磐海岸鑑賞會（どうも僕にはこの名稱の意味が解らないのだが）の所謂『躍進平市新名所繪葉書』刊行の趣旨をきかう、彼等は云ふ

『愛鄕畫狀の使命は從來旅行者の手土産程度に過ぎざりし名所繪葉書をして積極的に鄕土紹介の媒体たらんとするものである』

而して今度刊行する愛鄕畫狀平市新名所繪葉書は『市制實現の曉、全市を擧げての喜びを全國の知人に傳へるべき市民の畫狀である』

嘆き

佐分利晃

わが心
人に語れど
嘆きくるゝ
人ぞなし
心の傷手遺瀧なく
出ずるはたゞ
叫息のみ

すまじきものは戀にして
破れし心のくるしさよ
宵の夢にも偲ばれて
ねむれねね夜半幾度ぞ
されど施す術もなし
見えざる糸にたぐられて

5月9日
△奉天市民祭△母の日△西洋式の演習、初めて德丸ケ原で行はる（元保一二）△東京に入道車道の制を定せられる、何んでそんな暴む（明治四）△パート少將飛行機で北極を征服す（一、九二六）

5月10日
△普佛戰爭終結（明治四）△三國十涉、遼東還附（同二八）△二葉亭四迷歿（同四二）

松ケ岡公園（其の一）

珠雲　小野務平

萬株櫻蕾綺霞屯
仗履裙釵來去繁
處々高吟又低唱
千人沾醉好林園

講談

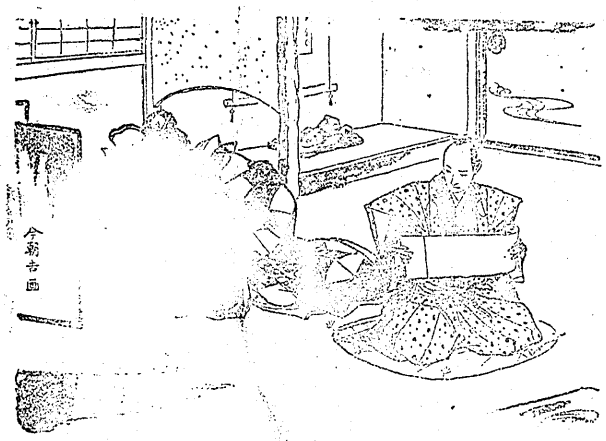
妖刀流轉（ようとうるてん）

(82)　邑井貞吉演
佐々木今朝吉畫

妖婦の失策（一）

お菊の方は容易ならぬ妖婦だから、ただ下らなく命を落したり、自然とあ配なぞはしてゐない。そこでお菊の方が考へたのは

菊『もう斯うなつては靖藤嘉平次が、キッとあの印籠を證據にして、源四郎を取調べるに違ひないが、そうなれば暗討の一條も白狀さいたことは喋舌るに極つてゐる、新七か何もいはぬのに、私がそんな根も葉もない事を云ひふらすのは怪しいと段々調べられゝば新七も包み切れまいから、私の大膽にも殿様の目を偸んで新七へ艶書を送つた一件が合でも應でも發覺するといよ〳〵御序になる、これは矢張り私の考へ通りこの源四郎といふお喋舌りに口をかせないようにするのが第一それは口止めや脅かしなどは迚も駄目だから、先づ此源四郎を亡き者にして了ふのが一番いゝ、亡き者いへば死んだ者、死人に口なしこれなら成程確だ、うもしよう……』



今菊舌画

とお菊が決心をした、結奴があつたもので決心をされた源四郎こそ〳〵面白皮だ。元〳〵毒婦のこと色にも出さない、ニッコリ笑ゝ含んだ顔

菊『源四郎様、大丈夫で御座ります御安心遊ばせ、いづれ面倒な詮議立てにも成りませうが、憚りながら殿様のお側にはこの菊がついと、米つきバッタのように辭儀をした。あんまり見つゝも〳〵圖ではない、自分に頼み込んで源四郎が立上らう、すると

菊『アレマアお待ち遊ばせ！』

とお菊が止める

源『何か御用に御座りますか』

菊『マア木戸様とした事が御組相手萬な、それなりでは立ちになりましては、折角此部屋まで來て頂いたの何ともならなくなるでは御座りませぬか』

源『オ、左様々々、不思議箱の手を細工と承はりましたな』

菊『それなので御座りますよ、それを見て頂き度い爲お越しを願ひましたのに印籠の事だけをお話しなされ居ります、木戸様には品の使ひ方を教へて頂き御恩を受けた私で御座りますから、その御禮にきつと私がうまく計らつて御覽に入ります故、氣を大きく持つておわで遊ばせ、必ず悪いようにはいたしませんから

と言つたが、そうだらう悪ようにはしない、皆な自分のいゝようにして了ふ了ん、源四郎ハッと平伏し

源『御親切なその御言葉を伺ひ本当源四郎御禮の申よう御座りませぬ、此上頼みに思ふは御部屋様ばかり無卒不悟を思召す事さえ、殿様の御面體よろしくお取なしの程願ひ奉ります』

極彩式の美人畫で内容は云はぬが花の錦繪だ、これを無言で源四郎の前へ差出す

披いて木戸がハッとした様に慌惚とされへ見とれてゐる際に、おきくの方が自らついで出した煎茶の中へ手早くも毒を入れた……毒殺の計畫、源四郎生命は風前の燈火……

お菊の方は床の違ひ棚から取出した手箱、その上に美しい繪卷物がのつてゐる

笑ひながらやさしい目で睨む眞似をした。その仇っぽい事、源四郎土砂をかけられたようにグニャ〳〵になつて其處へ坐り直す

『笑ひ過ぎたるは及ばざるが如しと言ふ通り、あまり過ぎては面白味がなくなりますわ』

詩評錄

小野磐士

二

石城地方特有の赤井嵐が『びゅつ〳〵』と吹く十一月上旬頃作詩者が一人山に登り秋の末を歎じて夕方歸途中なつかしの我家に自分の身を案じて待つてゐる父母、そして弟、古びた薄暗い小さな爐其の上にはすけた電燈が寂しく一つ黄色の光を放つてゐる。さあ早く歸つて皆を安心させ様と思つて、いそゐで山を下ると全身の血潮が炎の様にあつくなり汗がにじみ出て來たが体の他は秋も終りなので『枯風』吹いて寒いと云ふ感じを出したホームシックの散文詩

『蛙鳴く夜』

からころ蛙の
鳴く夜は
どてもねむいね
お母さん
おさらひしてる
讀本の

平水道水源地のほとりを想ひうかべて下さい

好間　鈴木欣々子

藤ちりて鮎のとかるゝ日がくるよ
百合ひらき鮎のとかるゝ朝きたり
鮎つりに百合がみちびく朝がくる
鮎解かれ百合咲き垂れし瀬に釣りぬ

新築落成

外科（内臓外科及一般外科）
X光線科、花柳病科
岩手醫學士　萬波勳
内科、小兒科
院長　前田清美
（自炊ノ便アリ）
病室完備
前田醫院
植田町本町電話二二四番

御食事とバーを兼ねた食堂
トンカツ
大衆食堂　京樂
平・銀座通り

豆タクの……スヂキタクシー
電二一七番
市内四〇錢…市外二割引

新車のおしらせ
斷然!!!乘心地良い!!!
ベビーフォード
入車いたしました。
是非！御試乘の程を！

お醤油は……ヤマフ印
醬屋
味噌醬油
たひら正宗
經飾食料品
山崎合名會社
福島縣平町
電話（營業部一〇番）（本店二七番）
明治生命磐城代理店　山崎與三郎

耳鼻咽喉科専門
平町南町一六番地
大和田醫院
（入院隨意）（病室完備）
電一七〇番

吸入用酸素
純度99%
度量衡
モノサシ
マス
ハカリ
計量器
体温器
寒暖計
開内藥局
電話四〇番

大ドライヤーを備へつけました
『皆々様の化粧院』とし一當に御最に預ります平驛前水野化粧院は昨年オゾン器を備へつけまして御滿足を受けましたが、更に此度「パーマネントセット」「洗髮」「染毛」用として『ドライヤー』を設備致しました、ドライヤーを御使用になればパーマネントセットも、洗髮も、十分間以内に又どんな白、赤毛でも五分とかゝらないうちに物の見事に仕上ります。スピートをお好みの今日どうぞ御利用下さいませ。
尙春のフェッシャールッサーヂ（美顔術）にはオゾン利用が第一で御座いますから海に、山に或は遠く御旅行なる時或御歸りの際は是非御顔の御手當に『水野』へ御立寄り下さる事をお待ち申しております。
平驛前
水野化粧院
主水野冬子
電話（營業中六七八番）（自宅五二五番）

外科一般　内臓外科
レントゲン科　泌尿器科
北川外科
〔血液檢査毎日〕
イツデモ入院デキマス。
平町新川町七〔電四六四〕
醫學士　北川芳夫
技師　小林良次

平町田町（電話五三一番）
高久病院
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
内科　小兒科
外科　花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

銘木（床ノ間材）
天井板、ベニヤ板買ふなら
確かに御期待に添ふ良品廉價の
福田材木商店へ
一度せる勉强振りを、せひ一度お試を乞ふ
營建築木材一式
業銘木・ベニヤ板
種秋田産杉四分板
目建具材・便利瓦
福島縣平町
電話平四六〇番

新築落成
山田屋旅館
植田町　電話八番
料理屋　山田家
○つ愛今た五一君小國の喜
ばかん太久
丸み子子郎香鈴き助舟榮ら

病室增築、手術室完備
産科　醫學博士
婦人科　五十嵐雄二
往診隨時　平町新川町『電話三六九番』

時代の要求皆様の足!!
尼子タクシーへも
豆タクが入りました。
御玄關から玄關へ……迅速簡便
是非御利用を……。
市内…三〇錢　市外…四割引
流線型セダン、大型貸切バス
宮行一直通は二丁目尼子自動車部より發車いたします。
平町二丁目
尼子自動車商會
電話六四〇番

外科、内臓外科
エツキス光線科
院長　安齋徹
……新設……産婦人科　醫學士　黑澤廣
平町田町
入院隨意
安齊醫院
電話四七五番

平町南町五二
根本産婦人科醫院
根本莊次郎
根本貞雄
（入院隨時）
電話三四番

無條約の海の護り

第一線に躍る 海軍志願合格者決定

來月一日晴れの入團

海國日本の護り、無條約の海の防備の第一線に躍る海軍志願兵の採用試驗は過般平第三小學校で行つたが此程合格採用者三十一名を左の如く決定した、縣下を通じれば昨年より六十一名多い、來月一日航空兵豫科は田浦航空隊、其他は横須賀海兵團に入る事となつた

石城郡（卅一人）△水兵平塚本慶治△航空兵(偵)同竹村彌美△水兵内郷羽賀誠△同庄司猛夫△機關兵同赤石澤浩中△水兵上遠野折笠淑三△水兵上遠野上遠野禮介△機關兵鹿島志賀幹司△同飯野山崎武△同澤田嘉吉△同神谷鈴木正巳△同好間柴野吉之助△同下小川鈴木警一△同上小川根本安正△機關兵同日西章△同四倉木村博△磐崎佐藤菁美△同岩並仁平△水兵錦鴨浪雄△同三坂大竹六郎△同機關兵同草野公朔△水兵赤井藥谷弘△機關兵同三瓶明男△同山田赤津幸一△水兵勿來安島秋雄△航空兵(偵)同根本源久郎△機關兵同佐藤鐵男△水兵箕輪遠藤喜重△機關兵田人小林重太郎△航空兵(偵)泉瀧内作榮△同(機)川部榕村廣

選擧も終えたので漸次增加するだらうと見られてゐる

増産の方策如何

けふ商工省から 石炭礦業聯合會へ諮問

第二磐炭の躍進、住吉、綴両坑の復舊等磐炭に於ける出炭操業の平常復歸を近き合會に對し大體左の如き内に控へて居る近來の常磐炭界は出水災害直後の如き出炭量の赤字續きから脱し前年に比べ時により增減二樣の明暗を織り合せた成績を辿つてゐる折柄、商工省では石炭增産問題は生産力擴充の前提條件として焦眉の急を要するものと先般來慎重考究の結果、先づ業者側の意見を聽くこととし八日石炭礦業聯合會長松本健次郎氏を本省に招致して同聯合會に對し大體左の如き内容の諮問を發することとなつた

一、石炭增産に關する應急的方策

二、日滿間における石炭需給の綜合的調整

三、石炭販賣價格統制の問題

之が爲地方各炭礦に於ても夫々考慮をめぐらされるものと看取さる

減じてはゐるが 依然縣下一

昨年より 平署の犯罪送致件數

平署の去月中の成績は依然窃盜、横領、詐欺等を親玉に犯罪件數百二十九件送致五十六件總選擧のあつた關係から例月に比し幾分少い、尙同署去る一月からの成績を見ると

犯罪	送致	二月	八九　五四
一月	三二六　七〇	三月	一七四　五八
		四月	一二九　五六

で昨年同期の犯罪一、六六八件送致二四八件に比し犯罪はグーッと九百五十件、送致は十件を減じてゐるが縣下の四大磐と比較する時は依然筆頭であり

山時鳥初松魚

満目清新の季に入る 平町の初夏點描

碧の空をふわり〳〵と一片の雲がらざれて飛び、それが丘を過ぎる、若葉が暗く明るく影が身を包んで不思議な思ひをする。行き過ぎるとパッと明るく、葉と葉が搖れて日影を洩らす——吉江の孤雁が描出した樣な清爽な初夏が葉櫻の松ヶ岡公園あたりにも訪れて煙を吐き乍ら百足の如く走る汽車を背景に一望廣濶と展けた小島田圃の大地には物の生育する氣が四邊一面に緩く唆かく漂つてゐる、金魚賣りの聲が澄み亘る街の鋪道に、ウキンドーに、絢爛たるパラソルのモードが氾濫し、氣早やなカン〳〵帽がソーダ水をもとめて金鈎物々しいカフエーの扉を押す。銀行のいしだたみに露を持つた露店の草花にも紛ふ方なき夏の輝きがまうはつて、女の踊美しき新緑薰風の季節は今やまさに酣ならんとしてゐる

産馬功勞者

田中かつ女表彰

川前村田中かつさんは多年産馬振興育成に盡力した産馬功勞者として目下郡山市に開催中の本縣種馬共進會の席上表彰される

平少年團員記念式參加

大日本少年團

其頃の町議戰を顧る

現在の約六分の一に過ぎなかつた 級別掉尾の有權者數

○△生記

(1)

第一次の平市會議員選擧が行はれんとする今年から數へて十七年前。即ち平町に於ける掉尾の級別選擧が行はれた當時の憶ひ出である

その頃創刊間も無かつた本紙の選擧に關する序奏記事

——總數七百八十九名の所謂幹部町民を網羅せる町會議員有權者名簿は廿日より町役場に於て一般の縱覽を開始し、柄にも無き野望家の僭越なる暗中飛躍や、明敏卓識よく平町議として何等遺憾無き部類の靜觀沈默や決戰期の切迫するに伴れ中原の雲行漸く暗澹として山雨將に到らんとする平町の昨今は、所謂風樓に滿つの文字其儘なる空氣が横溢してゐる

吾人は言論の愼重を持す意味に於て、今日遽に町議の適材を云爲する輕卒を避け度く思ふが、町の福祉を新き町民の一員として今次の町議選に最も思慮を伴ふた人物の選擇

鰹船愈今月下旬出動

郡下の鰹船は愈〻今月中旬を期して一齊に出動するので目下その準備に忙しい

目下の漁場は伊豆七島、八丈島、青ヶ島沖合で靜岡の船などは毎日五、六千尾の豐漁を續けてゐる

目下の水温は例年より二、三度高く漁期は二十日位早いと云ふ

縣社昇格の花園縣社祭典

來十五日盛大に

草野村花園神社は地元民の熱心な運動功を奏して既報の如く鄉社から縣社に昇格し關係民を喜ばせたがその第一回祭典は來る十五日盛大に行はれると

剱道昇段免狀授與

過般平署で行はれた剱道階級試驗により昇段した七十二名に對する免狀授與式は昨七日午後三時から同署演武場に擧行した

あすの檢閲に 輝く金馬簾

四消防組に下附

明九日磐中グラウンドで執行される平署管内聯合消防近の檢閲に際し小田縣警察部長から金馬簾を下附される譽れの消防組は夏井、下小川値上げを行つた湯本、澤渡の四組に決定、その事蹟左の如し

夏井（駐在所新築、道路改修）下小川（道路改修火見櫓建設、腕用ポンプ調製）湯本（道路改修、消防用貯水池新設）澤渡（三阪村役場新築、ポンプ置場新設）

鹿島村議改選

當選者きまる

鹿島村議改選は昨七日行はれたが當選者左の如し

三八志賀直哉　三二鈴木一男　二六金成留之助　二四佐藤善太　二九波立一郎　二三鵜沼忠美　三二四家重雄　二五四家一郎　二二赤坂稔　二二鈴木重孝　二九四家榮　二

古河炭礦賃銀値上げ

從業員ホク〳〵顔

古河炭礦好間礦業所では最聯盟では明九日東京に於て聯盟加入十周年記念式を擧行されるので平少年團からは上川前村田中かつ女表彰川理事及び健兒熊班長諸橋英祐少年が明九日午前五時十五分發で上京參加する

白旗は晴だ！

春蠶もボッ〳〵 掃立を開始する頃となつたので明後十日から村役場前に左の表識で天氣豫報を掲示養蠶家の便宜を圖る事となつた

△白旗（晴）　△赤旗（曇）　△青旗（雨）

六箱崎久雄（次點）佐藤米治　田口兵次郎

若葉の湯本に 夏祭り氣分横溢

けふ温泉神社例祭

湯本町縣社溫泉神社の例祭は今八日執行されたが、今年は恰も縣社昇格十周年に相當するので趣向を凝らした各町内の山車その他思ひ〳〵の祭興に一層の賑ひを呈し皐月晴れの町内を弓持ち稚子等男女兒の供御を隨へての神輿渡御などに大に夏祭りの氣分を高調した、因に同社は

大巳貴命、少彦名を合祀す、天武天皇の白鳳二年九月（一、三三二）小子部連鉦釣命を奉じ社殿を改善すと稱せらる。神殿は舊磐城郡主内藤義孝の造營に係り神寶として靈石、太刀、神鏡、内藤氏奉納の扁額等を藏す、相傳ふ古は三笠嶽の中腹に鎮座したが屢々火災に罹つたので曆應三年（二、〇〇〇）觀音山の中腹に移し再び火災に罹り慶安四年（二、三一一）内藤公現在の地に神殿を造營遷座し後延寶六年内藤左馬介之を再營、明治十三年延喜式内に列するを以て鄉社に昇格した。とある

更生神社を建て 理想部落の建設へ

北好間の新事業

好間村北好間字上野部落はである吉野義也氏が發起となつて同じ頂上に自力更生村の中心地なので同部落では附近の菊茸山頂上に國旗神社を建立、毎月六日を祭日として部落更生の計劃協揭揚塔を建設皇室の旬祭日である毎月一日これを揭揚議、報告などを行ひ神に誓して皇室尊崇の念を皷吹しつて『理想部落』の建設にてゐたが更に同大字の區長邁進する事となつた

あはや血の雨！

昨夕神輿のゴタ〳〵

昨七日午後四時頃、高久村同八幡神社の祭典神輿が豊間村薄磯地内に入り込んで來た際これ亦祭典の薄磯諏訪神社の神輿とバッタリ出會ひ双方入り亂れて揉み出しあはや血の雨を降らんとする處を急報によつて平署から草刈部長以下十數名の警官が自動車でかけつけ取り鎭めたので事なきを得た

原因は昨年、高久村下高久の地獄院で盆踊りの夜兩村の若者達が一寸した事から亂鬪騒ぎをしたのに遺恨をもつての結果らしく平署で取調べてゐる

天氣豫報

小名浜測候所觀測

今晩は北の風晴、明日は東の風晴夕立模樣（降霜あり）

強口氏憤る

名譽毀損で告訴

平町田町強口唯七郎氏は同町白銀町神谷乘次郎を名譽毀損で平署に告訴した

神谷は去る八年好間小學校新築の際強口氏が役場と請負者たる平町堀江工業會社との間に入り不正を働いたものの如く云ひふらしたとの理由

野球——庭球——水泳

入山今月中の行事決る

入山の今月中の行事が左の如くきまつた、愈よシーズンに入つたので野球に庭球に若人の跳躍が續く、水泳部でもわが世來たりとばかりに三千日プール開きをなし第一回の記錄會を催す中旬外野球部では目下希望者を募つて新人の養成に着手すると云ふ

八日　女子青年團　潮干狩

十六日　於自治會館　青年團　春季總會

廿三日　於磐中グラウンド　競技部　平商　磐中聯合對抗戰

卅日　於入山プール　水泳部第一回記錄會

中旬　於入山コート　庭球部對四ッ倉セメント戰

下旬　於入山コート　庭球部對日立溫交會戰

未定　於磐中球場　野球部對磐中戰

溺死。好間村川中子字竹渡農長次四男鈴木四郎（三）ちやんは七日午後一時頃增水してゐた附近の江筋に足を滑らして轉落溺死した

九日（小名浜測候所發表）

滿潮前二、五〇　二、一五　三、五五　千潮前九、二二　後九、二〇

十日

滿潮前二、五〇　各四、五〇　千潮前一〇、〇〇　後一〇、〇〇

——以上の如き部類の一二は僭越にも立候補を聲明して漸次その陣容を整へつつあると云ふが（中略）此種の當選を見る如き事あらば之も疑無く平町の一大不祥事と云はねばならぬ（中略）而して能ふべくんば内何割かの異分子を介入し、以て常に町政議決の龍斷を牽制し度く理想するものである

と所謂小會派の擡頭を慫慂してある、其頃そうした時代の姿も見られたのであつた

識別によつて行はれる事を祈つて已まぬのである

蓋し從來往々事實として見受られ、所謂政黨系流の暗鬪爭奪から生み出された樣な一部の議員は嚴密な意味に於て決して吾人の選ばんとする選良たる資格を有せぬからである

平町に於ける時代は正に古きより蟬脫して改造の途上を歩みつゝある。町議の改選！新時代と舊時代・其所に何等かの徑庭が生じて來るのは何人も知り得る當然の歸趨である

らねばならぬ——云々

級別の撤廢や制度の改正に伴ふ有權者の激增など同日語るべからざる點は多々ありたるも、時代の推移は良かれんとする選擧として急テンポでも無かつた事が顧みられる。以上大正十年四月二十三日の記事

二十六日には『議案の讃める議員を擧げよ』と題下に、最近來朝した

ヴ・ヴ・ヴ・